

第718回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議 題 —

テレビ番組 「ゆうなびスペシャル
止まらない原発—柏崎刈羽57年目の選択—」

令和8年 6月26日

BSN新潟放送

第718回 新潟放送番組審議会

1. 開催日時 令和8年 6月 26日（金）午前11時から

2. 開催場所 BSN新潟放送 本社6F会議室

3. 委員の出席

○ 委員側出席者 (敬称略・順不同)

委員長	馬場 省吾	委員	高橋 信
委員	太田 勇二	委員	三井田 由香
委員	大橋 未来子	委員	大橋 大河

○ 審議番組事前レポート提出者

副委員長	佐藤 元	委員	馬場 幸夫
委員	石坂 智恵美		

○ 放送事業者側出席者

社長	島田 好久
取締役	小湊 潤（編成業務局担当役員）
報道制作局長	吉井 秀之
<説明員>	堀 綾菜（報道制作部報道担当）
事務局長	間瀬 学（編成業務局長）
事務局	品田 泰（編成業務局テレビ編成部長）

4. 議題

- 1 報告事項 7月のネット番組・自社制作番組について
- 2 審議番組 テレビ番組 「ゆうなびスペシャル
止まらない原発－柏崎刈羽57年目の選択－」
放送日時：2026年 6月12日(金) 10:25～11:20

5. 議事の概要

島田社長の挨拶に続き、各担当者より7月のネット単発番組および自社制作番組についての報告が行われた。続いて6月12日に放送されたテレビ番組「ゆうなびスペシャル 止まらない原発―柏崎刈羽57年目の選択―」についての審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見～

- 冒頭2分の導入演出で視聴者を引き込み、歴史的経緯をテンポよく紹介させていた
- 再稼働の歴史や原発を誘致した背景など、分かりやすくまとめられていた。
- 遠藤洋次郎さんの落ち着いたナレーションが番組内容に合っていた。
- 原発という賛否が分かれる難しいテーマでありながら、再稼働プロセスや国策としてのあり方など、全体を通して中立性が保たれて制作されていた。
- 番組タイトル「止まらない原発」について、タイトルだけを見ると「止めたいけれど止まらない」というニュアンスを感じてしまう。「止められない原発」や「動き続ける原発」など、誤解を招かない客観的なタイトルの方が良かったのではないかな。
- 他局の特番と同じ有識者へのインタビューが使われており、内容が重なっていた部分があったのは少し残念だった。
- せっかくカウントダウンの演出をしたのに、「当日」がなく構成に違和感があった
- 原発がもたらす効果として、地元経済への影響だけでなく、地球温暖化、脱炭素という点もある。また使用済み燃料の問題は避けて通れない。広い視野でエネルギー問題を捉える視点が必要だと感じた。
- テロップの略語で分かりづらいものがあった。また、知事の発言でテロップにして強調した方が良かったものもあった。
- 新潟県民にとって重要な課題なので、今後も継続して取り上げてほしい。

～報道制作部 堀 綾菜 より～

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。この番組は原発や再稼働への賛成・反対を主旨としたものではなく、「地元同意」の現状や課題について考えたいと思い、大きなテーマに据えて制作しました。原発誘致から半世紀の歩みを振り返るだけでなく、日本のこれからのエネルギーについても見つめる機会にしたいとの思いがありました。ご指摘いただいたタイトルは、過去に複数の災害などで幾度も岐路に立ちながらそのたびに深い議論を交わし、原発との共生を選択してきたこれまでの新潟の歴史や、法的な権限を持たない一地方の「地元同意」の現実を含め、様々な意味合いを込めたものです。皆さまから頂戴したご意見を真摯に受け止め、今後はより広い視点で番組づくりができるよう努めてまいります。

【文責：番組審議会事務局】